2024 年度 ベトナム研修
報告書

医療科学部　放射線技術学科　3 回生　　氏名 萩原彩名

〈 研修概要 〉

2025 年 2 月 25 日から 3 月 6 日の 10 日間、ベトナム研修に参加しました。前半 5 日間はホーチミン市のチョーライ病院で研修し、後半 5 日間はフエ市でフエ医科薬科大学の学生と交流して附属病院で臨床実習を受けました。

〈 研修参加の目的 〉

本研修に参加した目的は、将来の目標を明確にすることです。特に興味があるモダリティもなく、キャリアプランが明確ではありません。就職後、診療放射線技師として向上心を持って働くためには、学び続ける姿勢が大切であり、何事にも積極的に行動・挑戦することが重要だと思っています。ただ、今まで挑戦することを避けてきたため、本研修に参加し、さまざまなことに挑戦し新たな経験を経て自身の特性を深く知ることで将来の目標が明確になればと考えました。

〈 研修で学んだこと 〉

チョーライ病院の放射線部門では画像検査についての患者情報を共有するために、週に一度、放射線科医と診療放射線技師が開くカンファレンスを見学させていただきました。通常はベトナム語での報告ですが、私たちにも理解できるように、英語にて実施してくださり、発表者は参加者からの質問に対しても英語で返答されていました。英語で情報を正確に伝えるためには英語力自体も大切ですが、伝える情報の本質を理解し、それを正確に伝えるための資料や話し方などに入念な準備が必要だと感じました。これはカンファレンスでの質疑応答のみならず、プレゼンテーションや大学のレポート課題においても大切であると感じ、今後の大学での課題にはこれらの点を意識して取り組みたいと思いました。

▲臨床実習の様子 1

フエ医科薬科大学附属病院では、胸部一般撮影のポジショニングを経験しました。講義ではファントムを用いたポジショニングを数回しただけであり、患者状態によって対応が異なるなど、講義では気付けなかった注意点や患者相手にポジショニングする大変さを学びました。患者一人ひとりを同じようにポジショニングしたつ

もりでも撮影した画像をみると位置のずれがあり、実際の経験を通してしか習得できない技術があることに気づきました。今後は、座学での学びと実践のつながりを意識して放射線技術について深く学びたいと思いました。また、日本の文化や病院について附属病院の技師の方から多く質問を受け、両国の文化や病院の違いついてお話しさせていただきました。技師の方々の好奇心や学びに対する貪欲さを目の当たりにし、自身の学びに対する意欲の低さに気づかされました。技師の方々のように、常に好奇心と疑問を持って学習し、知識を蓄えたいと思いました。また、英語で医療用語を伝えなければならないことが多かったため、コミュニケーションをとることが大変だと感じることもありました。しかし、わからない単語は調べて話すなど伝える努力をしていると、相手も一生懸命聞いてくださりました。その互いの努力のおかげで会話することが大変だということを忘れるほど楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

▲臨床実習の様子 2

フエ医科薬科大学の学生との交流プログラムで学び、成長したこと

フエ医科薬科大学での交流プログラムでは 100 人以上の聴衆の前で日本の文化や医療制度についてプレゼンテーションし、大勢の前で話す緊張との向き合い方を学びました。私は人前で話す際に緊張して言葉が詰まり、発表内容を伝えられないことがありましたが、練習通りに伝えられた実感がありました。胸を張って発表できたのは、練習を何度も繰り返し、いただいたフィードバックにて改善を重ねたことで自信を得られたからだと思います。緊張で手が震えましたが、相手に伝えるためにすべき行動を考えることを意識したことで練習通りに発表でき、実力の 100%が発揮できました。

▲プレゼンテーション発表の様子

一方、英語でのコミュニケーションの大変さも学びました。初めは繋がらない会話が多くありました。完全な文章で伝えることを意識するあまり、返答に時間を要して会話のリズムが合わなかったことが原因でした。簡単な単語だけでも会話が続くことがわかり、英語がわからなくても表情やジェスチャーを組み合わせることで十分にコミュニケーションがとれることを学びました。このように、研修中の経験を通して気づいたことや学んだことがたくさんあり、これまでの私なら躊躇するような挑戦に対しても、積極的に行動に移すことができるようになったと実感しました。

▲フエ医科薬科大学の学生との交流後の集合写真

〈 まとめ 〉

本研修では毎日の振り返りにより、多くの気づきが得られました。研修での体験を毎日言語化することで、自身の関心の対象と学びの理解が深まりました。また、毎朝目標を立てることで積極的に行動することを意識し、考えながら生活することができました。これからは目的をもって行動するために日々の振り返りを習慣化したいです。

▲チョーライ病院の方々と
のパーティーの様子

▲伝統衣装”アオダイ”を着て観光

〈 謝辞 〉

海外研修を受け入れてくださったチョーライ病院、フエ医科薬科大学および附属病院の皆様に深く感謝いたします。また引率してくださった玉木長良学長、霜村康平先生、本谷崇之先生、石田翔太先生、10 日間を共に過ごした 11 人の仲間に心からお礼申し上げます。最後に、本研修に関わった皆様に感謝申し上げます。